センサー付きロボ、LED電磁波メーター…

科学の楽しさ 子どもに伝授

NPO、宝塚で教室

子どもたちに科学の楽しさを伝えようと、NPO法人クリスタルテック（神戸市）が週末を中心に、小中学・高校生対象の工作教室を宝塚市内で開いている。手軽な小物類のほか、センサーや発光ダイオード（LED）を使ったロボットなどにも挑戦。今春からは学童保育も始め、関係者は「子どもの理科離れを防ぐきっかけになれば」と話している。（藤本幸大）

同法人は2012年12月に設立。同市逆瀬川の阪急逆瀬川駅前にあるビル3階に「ものづくり教室」を開設し、土日や夏休み、冬休みなどの平日に参加者を募り、メンバーが工作を教えている。

毎回テーマを定め、「いろいろなロボットと身の回りの電子機器や技術について学ぼう!!」では、地面に引いた線を感知するセンサーを取り付け、線に沿って動くロボットを製作。電磁波を学ぶ回では、強さに応じてLEDの光が変化する電磁波メーターを作った。

教室の棚には、LEDや抵抗器といった約400種類の部品が収められ、子どもたちは必要なものを探し出しては組み立てたり、はんだごてで基盤に固定したりする。参加した川西市立川西中1年古谷凌さん(12)は「ロボットの構造を考えたり、友達とアイデアを出したりして作るのが楽しい」と話す。

同法人の枝川大輔代表(36)は大阪府内の私立校で7年間、電子回路などを教え、ロボット作りも指導。その後、無線機の点検などを請け負う会社を設立した。「学校では子どもたちが機械の仕組みに触れることが少ない。電子工作の楽しさを伝えたい」と思い続け、教え子や友人と話し合う中で、NPO法人を思い立ったという。

枝川代表（左）のアドバイスを受けながらゲーム機作りに取り組む子どもたち（宝塚市逆瀬川で）

土、日曜日など参加者を募集

教室には毎回10人以上が参加。学童保育には小学1～5年生の6人が通い、室内にある部品や道具を使って自由に工作する。男子児童は現在、ロボットの性能を競う世界大会「ロボカップジュニア」の予選出場を目指し、製作に打ち込んでいるという。

枝川さんは「自分たちの手で完成させる喜びを味わってほしい。そして、『何で動くのだろう』と疑問を持ち、それを探求していくようになってもらえたら」と期待を寄せる。

今後の教室は7月20日～8月29日に予定。詳細はホームページ（http://npo-c.jp/）に掲載。問い合わせは同法人（0797・62・2905）。